

# 美術教育における「遊び」概念に関する小年表

宇田秀士

(奈良教育大学 美術教育講座 (美術科教育学))

## The chronological table of the Concept of "Play" in Art Education

Hideshi UDA

(Department of Fine Arts Education, Nara University of Education)

**要旨:** 筆者は、美術教育における「遊び」概念について、教師の〈意識〉をふまえて継続研究を行ってきた。小学校「造形遊び」の導入と展開、大阪の実践・研究者の乾一雄の業績研究、ドイツのM.ウアラスの実践提案との比較研究などを行い、これらの全体構造把握の考察を現在行っている。これらの考察の中で、「遊び」概念を把握するための相として、基盤としての「自由への志向」、「主体的な活動を生み出す内発的な動機づけ」、「芸術概念の拡がりをもたらす柔軟な思考への誘い」の3つを提示した。本資料では、今後の継続研究のために、「遊び」概念に関する小年表を提示する。

**キーワード:** 美術教育 art education  
「遊び」概念 the Concept of "Play"  
年表 the chronological table

### 1. 小年表作成の意図

筆者は、美術教育における「遊び」概念について、教師の〈意識〉をふまえて継続研究を行ってきた。小学校「造形遊び」の導入と展開、大阪の実践・研究者の乾一雄(1920-1992)の業績研究、ドイツのM.ウアラス(1966-)の実践提案との比較研究などを行い、これらの全体構造把握のための考察を現在行っている<sup>1)</sup>。この考察の中で、「遊び」概念を把握するための相として、基盤としての「自由への志向」、「主体的な活動を生み出す内発的な動機づけ」、「芸術概念の拡がりをもたらす柔軟な思考への誘い」の3つを提示した。本資料では、これらの構造考察をふまえ、以後の継続研究のために、その展開に関する小年表を提示する。

### 2. 関連する学術イベント

美術教育における「遊び」概念に関連し、筆者がコーディネーターを務めた学術イベントは、以下の通りである。

- 1999.8.27 美術科教育学会 第1回リサーチフォーラム、美術教育における“ディシプリン(規範性)”-「美術の論理」と「子供の論理」、東京都中央区。
- 2003.12.20 美術科教育学会第5回西地区会<研究発表会 in 奈良>、25年を経た「造形遊び」の功罪、奈良市。

- 2006.12.23 美術科教育学会第12回西地区会<研究発表会 in Osaka>、<30歳>目前の「造形遊び」を磨く、大阪市。
- 2008.8.7 招待セミナー 日独共同企画、芸術における人間形成-「造形遊び」に関する国際比較の視点も交えて、第32回 InSEA(国際美術教育学会)世界大会 in 大阪、大阪市。
- 2013.12.21 第36回美術科教育学会奈良大会 記念プレ学会<研究発表会 in Nara>、美術教育における「遊び」概念と指導、奈良市。
- 2016.7.30 2016年度 美術科教育学会 リサーチフォーラム in Osaka, Japan ドイツの初等教育における「アート・プロジェクト教育実践」から探る美術教育の新たなくかたち>、大阪市。

### 注

- 1) 宇田秀士、(2017)、「美術教育における「遊び」概念の諸相：教師の〈意識—規範・文化〉をふまえて」、美術科教育学会誌、38、pp.77-91、500。

付記 本研究は以下の補助金の支援を受けた。  
2017-2019年度 日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究(C) No.17K04780「<アートの拡張>をふまえた題材・授業開発」(代表 宇田 秀士)

# 美術教育における「遊び」概念に関する展開

-関西地方の事例を中心に-

年	主な関連事項 < >内は、関連する教育政策、文化的・社会的事項
1940年代 (昭和15年-)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1940 大阪の実践・研究者 乾 一雄(1920-1992) 教師生活を始める。 &lt;・1940 紀元2600年 祝典&gt; &lt;・1941.12 日本 第二次世界大戦(に参戦太平洋戦争)開始&gt; &lt;・1945.8 ポツダム宣言受諾,第二次世界大戦(太平洋戦争)終結&gt;</li> <li>・1947 大阪児童美術研究会 発会 初代会長 高妻巳子雄(1905-1982).</li> <li>・1947 学習指導要領 図画工作編 試案 発表.</li> <li>・1948 J.C.F.シラー(1759-1805),小栗孝則訳『人間の美的教育について』小石川書房(Johann Christoph Friedrich von Schiller,Über die ästhetische Erziehung des Menschen,1795)刊行.</li> <li>・1949 図画工作・美術教育研究団体連絡機構・西日本教育美術連盟が設立.</li> <li>・1949.5 奈良県美育振興会設立 美育振興会開催、奈良県下児童生徒作品展開催.</li> </ul>
1950年代 (昭和25年-)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1950 大阪児童美術研究会編纂『小学図画工作』(いわゆる準教科書) 刊行.</li> <li>・1950 J.ポロック(1912-1956)「ワン:ナンバー31 Jackson Pollock ,One Number31」油彩・エナメル・キャンバス,269.5x530.8cm,ニューヨーク近代美術館(MoMA New York)蔵.</li> <li>・1950.11 第1回奈良県下図工教育研究大会(桜井小学校). &lt;・1951 学習指導要領図画工作編 試案 発表.&gt;</li> <li>・1951 久保貞次郎(1909-1996)『児童美術』美術出版社 刊行. &lt;・1952 サンフランシスコ講話条約発効による日本の独立.&gt;</li> <li>・1952 J.デューイ(1859-1952), 鈴木康司訳『経験としての芸術』春秋社(John Dewy, Art As Experience,1934)刊行.</li> <li>・1952 創造美育協会 発会 久保貞次郎,北川民次(1894-1989)ら.</li> <li>・1952 新しい画の会 発会.1959に新しい絵の会に再編. 多田信作(1932-),井手則雄(1916-1986),箕田源二郎(1918-2000)ら.</li> <li>・1953 H.リード(1893-1968),植村鷹千代・水沢孝策訳『芸術による教育』美術出版社(Herbert Read, <i>Education through Art</i>,1943)刊行.</li> <li>・1953 乾 一雄 大阪学芸大学(現大阪教育大学)附属天王寺小学校教諭となる.1967.3まで</li> <li>・1954.7 具体美術協会結成 吉原治良(1905-1972),白髪一雄(1924-2008),嶋本昭三(1928-2013)ほか.1956に「具体美術宣言」.</li> <li>・1954 ドイツのバウハウスの元校長で建築家のW.グロピウス(W. Gropius 1883-1969)来日.</li> <li>・1955 造形教育センター発会 勝見勝(1909-1983),松原郁二(1902-1977),高橋正人(1912-2000),熊本高工(1918-2008)ら.</li> <li>・1956 久保貞次郎「絵を描く子どもたち」『美術手帖』美術出版社,同名映画製作(監督 羽仁進).</li> <li>・1956 沢野井信夫(1916-1990)『新しい絵あそび-造形ノート』創元社 刊行.『新しい絵あそび-デザイン実習基礎併用』として1966年に改訂版. &lt;・1957.12 開高健(1930-1989)『裸の王様』(『文學界』文藝春秋社)発表.当時の美術教育の描写がある.&gt;</li> <li>・1957 京都アンデパンダン展(於:京都市美術館)の開始.前身の展覧会を経て1991まで開催. &lt;・1958 学習指導要領 図画工作編の改訂.&gt;</li> <li>・1959 アラン・カプロー(1927-2006)「6つの部分から成る18のハプニング Allan Kaprow,18 Happenings in 6 Parts」.</li> </ul>
1960年代 (昭和35年-)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1960 V.ローエンフェルド(1903-1960)水沢孝策訳『児童美術と創造性』美術出版社(Viktor Lowenfeld, <i>The Nature of Creative Activity</i>,1938.1939に英訳)刊行.</li> <li>・1961「教科における態度の育成」『大阪学芸大学附属小学校紀要』刊行.</li> <li>・1962 西元保「禅と美術教育(1)」『大阪児童美術』19で発表.「禅と美術教育」は,同誌上で22回続いた.</li> <li>・1963 ヨハン・ホイジンガ(1872-1945),高橋英夫訳『ホモ・ルーデンス-人類文化と遊戯』中央公論社(Johan Huizinga, <i>Homo Ludens</i>,1938) 刊行.</li> </ul>



年	主な関連事項 < >内は、関連する教育政策、文化的・社会的事項
1960年代 (昭和35 年-)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1965 高坂正顕『私見 期待される人間像』筑摩書房 刊行。</li> <li>・1965-1968 乾 一雄「評論 遊びと労役と娯楽と その1」『大阪児童美術』28号,1965年2月,「同評論 その2」同誌29,1965年8月,「同評論 その3」同誌30,1966年5月,「同評論 その4」同誌31,1967年1月,「同評論 その5」同誌32,1968年1月 発表。</li> <li>・1965.8 日本美術教育連合とInSEA(国際美術教育学会)共催 第17回国際美術教育会議開催 於:東京。</li> <li>・1965 ジョセフ・コスース(1945-)「ひとつの,そして3つの椅子 Joseph Kosuth,One and Three Chairs」,ニューヨーク近代美術館蔵。</li> <li>・1966 文部省『広報資料33 期待される人間像』大蔵省印刷局 刊行。</li> <li>・1966.7/1967.9 造形教育センターが教育課程審議会に要望書を提出→「造形」科改称問題へ</li> <li>・1967.4 乾 一雄 大阪市教育委員会指導主事となる。</li> <li>・1967.8 「第1回PLAY展」開催 神戸(The Play 結成へ)。 中田和成(大阪教育大学学生)は身体に発煙筒を巻き付けて疾走 腹部に大やけどを負う。以後,発煙筒は,池水慶一(1937-)の行為のアクセントとしての位置を占めたという。</li> <li>・1968.7 小学校学習指導要領改訂 図画工作 教科調査官 松本巖</li> <li>・1968.8 The Play 池水慶一ほか「VOYAGE」和歌山県串本沖。</li> <li>・1968 沢野井信夫『造形のおそび-現代美術の創造』創元社 刊行。</li> <li>・1969.4 中学校学習指導要領改訂 美術 教科調査官 小池喜雄。</li> <li>・1968 関根伸夫(1942-2019)「位相-大地」神戸須磨離宮公園第1回「現代美術展」大賞受賞。 &lt;・1968.12 東京大学・東京教育大学 体育学部を除き,昭和44(1969)年度入試中止を決定&gt;</li> <li>・1969.4 三澤正彦(1946-) 大阪にて教師を始める。 &lt;・1969.8 大学紛争を收拾するための「大学運営に関する臨時措置法案」成立&gt;</li> <li>・1969 池水慶一第9回現代美術展/東京都美術館 京都市美術館 フロンティア大賞受賞。</li> </ul>
1970年代 (昭和45 年-)	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;・1970 大阪府で日本万国博覧会開催&gt;</li> <li>・1970 ロバート・スミッソン(1938-1973),「螺旋形の突堤 Robert Smithson,Spiral Jetty,Great Salt Lake,USA.</li> <li>・1970.8 The Play 池水慶一ほか「SHEEP・羊飼」京都→大阪。 &lt;・1970.11 日本維新派結成(1987に維新派と改称) 松本雄吉(1946-2016)ら&gt;</li> <li>・1970 R.カイヨワ(1913-1978),清水幾太郎・霧生和夫訳『遊びと人間』岩波書店(Roger Caillois, <i>Les Jeux et les Hommes</i>,1958)刊行。</li> <li>・1971 中央教育審議会答申。</li> <li>・1972.4 乾 一雄 大阪市立東淡路小学校長着任。</li> <li>・1973-1975 大阪児童美術研究会F部会(Doの会)の研究テーマ「明日に役立たない美術教育を考える」 1974.1 発表会要項題目「儀式1. 28-命名式,着服の儀,痕跡の会,クリーンワーク」。 1975.1 発表会要項題目「美術教育の迷信-なぜ大きく描かねばならないか,なぜチューリップやお人形を描くと概念的なのか」「美術教師は,画家か彫刻家でなければ指導できないのか」などの話し合い。 1976.1 発表会要項題目「F部会3年間のまとめ」。</li> <li>・1974.6 日本維新派(松本雄吉ら)『あまてらす』(天王寺野外音楽堂&lt;巨大ビニールドームシアター&gt;).</li> <li>・1975 子安美知子(1933-2017)『ミュンヘンの小学生』中央公論社 刊行。</li> <li>・1975.10 日本維新派(松本雄吉ら)『足の裏から冥王まで』(大阪淀川河原&lt;土と水による円環劇場&gt;).</li> <li>・1975 佐藤諒(1928-)ほか『造形おそび』全5巻,星の環社 刊行。</li> <li>・1976 W.ヴィオラ,久保貞次郎(1909-1996)・深田尚彦訳『チゼックの美術教育』黎明書房(Wilhelm Viola, <i>Child Art</i>,University of London Press Ltd,1942)刊行。</li> <li>・1976.5-9 乾一雄ほか「子どもの造形性を育てる指導 テーマ1 線描の基本事項とその実践研究」『教育美術』教育美術振興会(37)6,1976年5月。「テーマ2 面描」同誌(37)7,1976年6月。「テーマ3 水絵の具による色表現」同誌(37)8,1976年7月。「テーマ4 粘土による塊表現」同誌(37)10,1976年9月 発表。</li> <li>・1976.12 教育課程審議会最終答申「ゆとりと充実」</li> <li>・1977.4 乾一雄 大阪市立大開小学校長となる。1978.4-1980.3の2年間大阪市の指定を受け図画工作科研究。</li> <li>・1977-1986 The Play 池水慶一ほか「雷」 於:京都府東南部 鷲峰山・大峰山。</li> <li>・1977.7 小中学校学習指導要領改訂 図画工作科 「造形遊び(造形的な遊び)」小学校低学年に導入 教科調査官 樋口敏生,新川昭一(1927-)</li> <li>・1978.10 Doの会(青木正美,板良敏敏(1945-),井上三知,岩崎由起夫(1949-2011),長町充家(1945-),三澤正彦,花篤實(1932-)ほか)「行為の美術教育-「もの」と「空間」の設定による実践報告」『教育美術』39(11)にて発表。</li> </ul>

年	主な関連事項 < >内は、関連する教育政策、文化的・社会的事項
1970年代 (昭和45年-)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1978 辻田嘉邦(1937-2019),板良敷敏,岩崎由紀夫『実践例による造形遊びのポイント』日本文教出版(1982 辻田,板良敷,岩崎,今西榮(1953-) )『造形遊び 指導と展開のポイント』日本文教出版。</li> <li>&lt;・1979.1 初の国立大学共通一次試験実施&gt;</li> <li>・1979 中村雄二郎(1925-2017)『共通感覚論』岩波書店 刊行。</li> <li>・1979.3 大学美術教科教育研究会(後の美術科教育学会) 奈良教育大学で第1回大会を開催,以後4回目まで同大学で開催。鈴木寛男(1921-2009),大勝恵一郎(1924-2010),比留間良介(1944-)らの尽力による。</li> <li>・1979 福井昭雄(1932-)『造形遊び』東京書籍 刊行。</li> <li>・1979 M.チクセントミハイ(1934-) ,今村浩明訳『楽しむということ』新思案社刊行。『楽しみの社会学 改題新装版』として2000に刊行。(Mihaly Csikszentmihalyi, <i>Beyond Boredom and Anxiety: Experiencing Flow in Work and Play</i>,1975)。</li> <li>・1979.8 Doの会 大阪府子どもフェア 於:万博記念公園。</li> <li>・1979.11 昭和54年度第8回教育美術研修会(1979年8月開催,於:東京)の報告記事「行為の美術教育-「もの」と「空間」の設定から」発表『教育美術』11月号。</li> <li>・1979 那賀貞彦(1944-)「アトラス企画室」を主宰し、『アトラス通信』創刊。</li> </ul>
1980年代 (昭和55年-)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1980 デシ,E.L.(1942-) (安藤延男・石田梅男訳)『内発的動機づけ実験社会心理学的アプローチ』誠心書房(Deci, Edward.L., <i>Intrinsic motivation: Perception and Perceptual Development</i>, 1975)刊行。</li> <li>・1980.3 『教育美術』3月号に大開小の2年間の成果を発表。</li> <li>・1980.4 乾 一雄 大谷女子大学(現大阪大谷大学)教員となる。</li> <li>・1980.10 東京都版画工作研究会(吉田宏,鈴木弘之,清野尚義,野乃目桂三ほか)『ワークショップへの道 -1980.8.27-28 討論会 於:茨城県大洗町茨交ホテル』刊行。</li> <li>・1981 西野範夫(1937-)『たのしいぞうけい 1ねんせい〜3ねんせい』(3冊)岩崎書店 刊行。</li> <li>・1981 坂口義幸(1926-)『造形遊びを発展させた絵の指導』日本文教出版 刊行。</li> <li>・1981 河村徳治(1933-)「大阪における「きっかけ題材」の一考察」『大学美術教育学会誌』13 発表。</li> <li>・1981 波多野龍彦(よしか),稲垣佳世子『中公新書599 無気力の心理学』中央公論新社 刊行。</li> <li>・1982 松本キミ子(1940-)『三原色の絵の具箱』ほるぷ 刊行。</li> <li>&lt;・1983.4 東京デイズニーランド開園&gt;</li> <li>&lt;・1984.8 臨時教育審議会設置&gt;</li> <li>・1985 那賀貞彦「創作-作家論から作品論の美術教育へ」山本正男(1912-2007)監修,川上実(1934-) 編集『美術教育学研究2 美術教育の方法』玉川大学出版 発表。</li> <li>&lt;・1985.9 プラザ合意(Plaza Accord)G5(先進5か国蔵相・中央銀行総裁会議)により発表 以後,円高による海外資産の買い漁り表面化 バブル景気 1986,7年から1991,2年頃まで&gt;</li> <li>・1986 岡田博(1931-2012)「「きっかけ題材」の構造」大阪児童美術研究会『児童美術』55に発表。</li> <li>・1986-1987頃 Doの会『ACTING』(私家版)刊行。</li> <li>・1984 ヨーゼフ・ボイス(1921-1986)が来日。</li> <li>「レクチャア 芸術と社会 1984.5.30(三島憲一訳) 西武美術館・WAVE・SPN『1984 Joseph Beuys in Japan ドキュメント ヨーゼフ・ボイス・TVプリンター・マガジン』ペヨトル工房刊行。</li> <li>・1987 丹青総合研究所『ミュージアムワークシート-博物館・美術館の教育プログラム』刊行。</li> <li>・1987 H.ガードナー(1943-)『心の新しい科学-認知革命の歴史』産業図書(Howard Gardner, <i>The Mind's New Science ; A History of the Cognitive Revolution</i>, 1985)刊行。</li> <li>・1987 E.W.アイズナー(1933-2014),仲瀬潤久ほか訳『美術教育と子どもの知的発達』黎明書房(Eisner, Elliot W. , <i>Educating Artistic Vision</i>,1972)刊行。</li> <li>・1988 那賀貞彦「幾つかの神話-戦後美術教育の問題」那賀編『美術科教育論&lt;現代教科教育シリーズ6&gt;』東信堂に発表。</li> <li>・1989.3 小中学校学習指導要領改訂「造形遊び(材料をもとにした造形遊び)」小学校の中学年まで拡大。</li> <li>「新しい学力観」「生活科」教科調査官 西野範夫,遠藤友麗(とよとし)(1943-) 学習指導要領指導書作成協力者 板良敷敏ほか。</li> <li>&lt;・1989.11 東ドイツ,ベルリンの壁を実質的に撤去&gt;</li> <li>・1989 酒井臣吾(1934-)『酒井式描画指導法入門』明治図書 刊行。</li> </ul>



年	主な関連事項 < >内は、関連する教育政策、文化的・社会的事項
1990年代 (平成2年-)	<p>&lt;・1990 ラトビア,リトアニア,エストニアがソ連からの独立決議&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1991 東京都図画工作研究会(会長森内富久志)教科性検討委員会(委員長 鈴木弘之(1945-))『アートスクランブル-子どもたちからの発信』文化書房博文社 刊行.</li> <li>・1991 指導要録の改訂 評価の観点に「関心・意欲・態度,思考力・判断,技能・表現,知識・理解」の4つ.</li> <li>・1991 『小学校図画工作指導資料 指導計画の作成と学習指導』日本文教出版 刊行.</li> <li>・1993 『小学校図画工作指導資料 新しい学力観に立つ図画工作の学習指導の創造』日本文教出版 刊行.                          &lt;・1995.1.17 阪神・淡路大震災&gt;</li> <li>・1995 『小学校図画工作指導資料 新しい学力観に立つ図画工作の授業の工夫』日本文教出版 刊行.</li> <li>・1996 ウド・リーベルト(長田謙一(1948-))ほか訳『芸術あそび,ワークショップつくる・みるハンドブック(-ハノーヴァー・シュプレングル美術館&lt;子ども広場&gt;の活動 1978-1990)』日本文教出版刊行 ("Kunstspiel Kinderforum im Sprengel-Museum, Hannover / Aktionen 1978 bis 1985 und viele Anregungen zum Mitmachen (1985, 1987), "OCA Hannover(1990)" by Udo Liebelt.)</li> <li>・1996 佐藤学「現代学習論批判 構成主義とその後」堀尾輝久・須藤敏昭他編『講座学校 第5 学校の学び・人間の学び』柏書房発表.</li> <li>・1996.12.14 美術科教育学会第18回公開シンポジウム「教育改革の動向と美術教育」における金子一夫(1950-)の発表が後の『美育文化』での「論争」につながる.</li> <li>・1996-1997 西野範夫(1937-)「連載子どもたちがつくる学校と教育 第8~15回 -子どもの絵の意味の再構築, つくることの意味の再構築,造形遊びの再定義」『美育文化』美育文化協会 vol.46/47 発表 (連載は,『美育文化』1996年4月号から,2000年7月号まで,43回掲載)</li> <li>・1997 穴澤秀隆(1955-)のプロデュースにより『美育文化』を舞台として,金子一夫と柴田和豊(1948-)との討論が設定され,広く読者を巻き込んだ意見交換が行われた(いわゆる「金子/柴田論争」).</li> <li>・1997 金子一夫「教育改革と美術教育」『美育文化』47(5).                          永守基樹(1953-)「造形遊び-美術と教育の出会いの孕むもの」『美育文化』47(7).</li> <li>・1997 三澤正彦 学習指導要領解説作成協力者.</li> <li>・1998 金子一夫『美術科教育の方法論と歴史』中央公論美術出版社 刊行.</li> <li>・1998.12 小中学校学習指導要領改訂「造形遊び(材料などをもとにした楽しい造形活動) 小の高学年に拡大「生きる力」総合的な学習の時間 図画工作・美術 教科調査官 板良敷敏,遠藤友麗</li> <li>・1998.3 花篤實 大阪教育大学 定年退官</li> <li>・1999 三澤ほか『新しい教育課程と学習活動の実際』東洋館出版.</li> <li>・1999.8 美術科教育学会リサーチフォーラム'99「美術教育における“ディシプリン(規範性)“-「美術の論理」と「子どもの論理」於:東京,金子一夫,那賀貞彦,水島尚喜(1957-),宮協理(1929-),新井哲夫(1951-),宇田秀士ほか.</li> </ul>
2000年代 (平成12年-)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2000 久保田賢一『構成主義パラダイムと学習環境デザイン』関西大学出版部 刊行.</li> <li>・2000 第1回「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」北川フラム(1946-)ほか, トリエンナーレ形式で第7回まで開催.</li> <li>・2000- 経済協力開発機構(OECD)による国際的な生徒の学習到達度調査(PISA:Programme for International Student Assessment)が話題となる.以後,3年毎の調査.</li> <li>・2001 市川伸一『PHP新書171 学ぶ意欲の心理学』PHP 研究所 刊行.                          &lt;2001.9.11 アメリカ同時多発テロ事件.&gt;</li> <li>・2001.1 文部科学省に再編.</li> <li>・2001.4 指導要録改訂 評価欄の記入も観点別学習状況と同様に目標標準型での評価に.</li> <li>・2002 維新派 朝日舞台芸術賞受賞 松本雄吉ら.</li> <li>・2002.4 学校完全週5日制スタート</li> <li>・2003.12.20 美術科教育学会第5回西地区会&lt;研究発表会 in 奈良&gt;「25年を経た「造形遊び」の功罪 &lt;新たに切り拓いた道&gt;と&lt;巻き起こした混乱・誤謬&gt;」宇田秀士(1963-),永守基樹,宮崎藤吉,山口二三八,足立元ほか.</li> <li>・2004-2005 武藤智子・金子一夫「「造形遊び」の発生についての歴史的研究(1)-(4)」『茨城大学教育学部紀要(教育科学)』(53)(54)発表.</li> <li>・2005 池水慶一 横浜トリエンナーレに“出品”.</li> <li>・2006.3 板良敷敏 文部科学省視学官 定年退職.</li> <li>・2006 教育基本法改正.</li> <li>・2006.12.23 美術科教育学会第12回西地区会&lt;研究発表会 in Osaka&gt;-「&lt;30歳&gt;目前の「造形遊び」を磨く- Do(行為),現在性,出会いと陶冶) 宇田秀士,三澤正彦,今西榮,岡田陽子,人見和宏(1965-),吉田貴富ほか.</li> <li>・2007.3 三澤正彦 小学校長 定年退職.</li> </ul>

年	主な関連事項 < >内は、関連する教育政策、文化的・社会的事項
2000年代 (平成12年-)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2008.3 小中学校学習指導要領改訂 図画工作・美術 教科調査官 奥村高明(1958- ),村上尚徳(1962- ) 学習指導要領解説作成協力者 水島尚喜ら 「生きる力」「言語事項の充実」「共通事項」</li> <li>・2008.8.7 招待セミナー 日独共同企画「芸術における人間形成・「造形遊び」に関する国際比較の視点も交えて」 第32回 InSEA(国際美術教育学会)世界大会 in 大阪.M.ウアラス(Mario Urlas 1966- ),宇田秀士,長田謙一.</li> <li>・2008 美術科教育学会「拡張された&lt;美術/教育&gt;の基本構造と可能性を考えるための部会(現代&lt;A/E&gt;部会) 活動開始. 柴田和豊「新しい部会を始めます」『美術科教育学会通信』69. 以後『美術科教育学会通信』71,74,77,80,83,86,89,92,95,98 に活動掲載(2009-2018).</li> </ul>
2010年代 (平成22年-)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2010.3 比留間良介(奈良教育大学),那賀貞彦(大阪教育大学)定年退職.</li> <li>・2010.7-10 第1回「瀬戸内国際芸術祭」(北川フラムほか) トリエンナーレ形式で第4回まで開催. &lt;・2011.3.11 東日本大震災,福島第一原発事故&gt;</li> <li>・2011 浅川希洋志,静岡大学教育学部附属浜松中学校『フロー理論にもとづく「学ぶひたる」授業の創造』学文社 刊行.</li> <li>・2013.12.21 第36回美術科教育学会奈良大会 記念プレ学会&lt;研究発表会 in Nara&gt;「美術教育における「遊び」概念と指導 -遊びと学び,内発的動機づけ,造形の基本,芸術概念の拡張,共通事項 -」 宇田秀士,黒岩和子,團上哲,長友紀子,水島尚喜ほか.</li> <li>・2014.3 第36回美術科教育学会奈良大会開催 美術教育における&lt;言葉・コミュニケーション&gt;-アートと言葉,言語活動の充実,鑑賞と表現,遊びと学び,共通事項.</li> <li>・2015 パブロ・エルゲラ(1971- ),アート&amp;ソサイエティ研究センター SEA研究会訳『ソーシャリーエンゲイジド・アート入門-アートが社会と深く関わるための10のポイント』フィルムアート社 刊行(Pablo Helguera, <i>Education for Socially Engaged Art: A Materials and Techniques Handbook</i>, 2011).</li> <li>・2016.7 2016年度 美術科教育学会 リサーチフォーラム in Osaka, Japan開催. ドイツの初等教育における「アート・プロジェクト教育実践」から探る美術教育の新たなくかたち&gt; マリオ・ウアラス,宇田秀士,岡田陽子,辻大地,福本謹一(1952- ),湯川雅紀,鈴木幹雄(1952- ),佐藤賢司(1966- ) ほか.記録集 <a href="http://www.artedu.jp/地区会%E3%80%80リサーチ・フォーラム-1/報告記録/">http://www.artedu.jp/地区会%E3%80%80リサーチ・フォーラム-1/報告記録/</a> 2020.1.10</li> <li>・2016 北田暁大(1971- )・神野真吾(1967- )・竹田恵子(社会の芸術フォーラム運営委員会)編(2016)『社会の芸術/芸術という社会 社会とアートの関係, その再創造に向けて』フィルムアート社 刊行.</li> <li>・2017.3 小中学校学習指導要領改訂 図画工作・美術 教科調査官 岡田京子,東良雅人(1962- ). 全ての教科等を,「知識及び技能」「思考力, 判断力, 表現力等」「学びに向かう力, 人間性等」の3つの柱で再整理.「深い学び」の充実</li> <li>・2017 デビット・A・スーザ, トム・ピレッキ, 胸組虎龍訳『AI時代を生きる子どものためのSTEAM教育』幻冬舎 (David A. Sousa, Thomas J. Pilecki, <i>From STEM to STEAM: Using Brain-Compatible Strategies to Integrate the Arts</i>, 2013) 刊行.</li> <li>・2018.10 文化庁の機能強化を図るための組織改編によって,学校における芸術に関する教育に関する事務が文部科学省初等中等教育局から文化庁参事官(芸術文化担当)に移管される.文化庁において学校教育における人材育成からトップレベルの芸術家の育成まで一体的に行うことになるという.長官は,宮田亮平(1945- ).</li> </ul>

(2020. 1. 10)

## 主な参考文献/Web サイト

- ・大阪児童美術研究会、(1974-1976)、『第16-18回 大阪児童美術研究会 研究発表会要項』.
- ・針生一郎、(1979)、『戦後美術盛衰史<東書選書 34>』東京書籍.
- ・中原祐介監修、(1984)、『現代美術事典』美術出版社.
- ・池水慶一編集、(2005)、『記録誌 IKEMIZU! 1964-2004』
- ・池水慶一Web サイト <http://www.ne.jp/asahi/ike/mizu/index.htm> 2019.11.15 閲覧.
- ・劇団 維新派オフィシャルサイト <http://www.ishinha.com/> 2019.11.15 閲覧.
- ・奈良県図画工作・美術教育研究会 <http://www.ne.jp/asahi/art/nazubiken/> 2019.11.15 閲覧.
- ・末永昭和監修、(2013)、『増補新装 カラー版 20世紀の美術』美術出版
- ・マリオ・ウアラス(Mario Urlas) HP Schulprojekte Künstlerisches Projekt“Speicher”  
<https://www.mario-urlas.de/lehre/schulprojekte/> 2019.11.15 閲覧